

科目名	新聞学基礎	担当者	山口 仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○					○	

【授業の概要】								
新聞学とは新聞社に関する学問のことではなく、ニュースにまつわる様々な社会的現象・制度を研究する学問である。そしてニュースはレビュー（評論）とともにジャーナリズムを構成している。そしてジャーナリズムはコミュニケーションの一機能である。この授業では、社会的行為、およびその行為主体としての「ジャーナリズム」を政治学、社会学、メディア・コミュニケーション論的観点から説明する。基本的にはジャーナリズムの担い手としてマス・メディアを想定して、理論と事例を織り交ぜながら解説していきたい。								

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)								
ジャーナリズムを政治・社会学の観点から理解できるようになること。そのうえで、所定の時間内にジャーナリズムに関する基本的概念を用いて、社会的事例・出来事について分析的な論述ができるようになること。								

【履修条件】								
特になし								

【授業方法】								
講義形式（オンデマンド授業で実施する）								

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前学習と小レポート	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	新聞学の学問の射程と、基礎的な概念について説明することができる。					2							
②	現代のジャーナリズム、メディア、コミュニケーションについて概要を理解することができる。						2						
③	現代のジャーナリズム、メディア、コミュニケーションに関する問題点について、学生同士で議論することができる。											2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	オンデマンド授業のため、通常の対面試験は実施しません。											
小テスト等	なし											
レポート等	期末試験代替レポート（短い時間で執筆するレポート課題）を実施し、①②に関する到達度を評価する。	46	46									92
討論・発表等	終盤の授業でリアクションペーパーを用いた疑似的なディスカッションを行う。			4								4
授業への参画度	適宜行うリアクションペーパーで参画度を評価する。			4								4
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		46	46	8								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。リアクションペーパーについては、次の授業でリプライします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第2版	大井真二編ほか	世界思想社	2018	教科書	必携
マス・コミの自由に関する四理論	F. S. シーバート他	東京創元社	1953	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜3限 研究室 ※事前にメール、手紙等で連絡するように。yamaguchi.hitoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	「新聞学（メディア・ジャーナリズム）」に関する議論の射程について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズム研究の広範さについて理解することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読してくること。	120分
	事後学修	授業内で解説したことを振りかえり、理解を深めること。	120分
2	ニュースとニュース価値①	事件・出来事を伝えるコミュニケーションの特徴	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、「ニュース価値」の概念について理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
3	ニュースとニュース価値②	事件・出来事を伝えるコミュニケーションが受ける影響	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、コミュニケーションとしてのジャーナリズムを規定する社会的要因について理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
4	ジャーナリズム規範論の基礎①	ジャーナリズムに関する規範的議論の系譜をシーバートらの『プレスに関する四理論』をもとに解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズムに関する規範論の先行研究をおさえ、独りよがりの道徳論・規範論を展開することの問題を理解すること。	
	事前学修	事前配布の資料を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
5	ジャーナリズムに関する規範論の基礎②	『プレスに関する四理論』以外のジャーナリズムに関する規範論を解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、コミュニケーションに関する規範論を踏まえてジャーナリズムの規範論を展開できるようにすること。	
	事前学修	事前に配布した資料を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
6	事実の選択と編集①（フレーム概念）	事件・現実に関する情報の取捨選択についてフレーム概念を中心に解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、情報の取捨選択について基礎的に理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	事実の選択と編集②（物語概念）	事件・現実に関する情報の取捨選択について物語概念を中心に解説する。		
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、情報の取捨選択について基礎的に理解することができる。		
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分	
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分	
8	事実の選択と編集③（物語概念のつづき）	事件・現実に関する情報の取捨選択について物語概念を中心に解説し、メディア・コミュニケーションの一種としてジャーナリズムをとくにオーディエンスの視点でとらえる。		
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、情報の取捨選択について基礎的に理解することができる。		
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分	
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分	
9	規範的ジャーナリズム論からの視座①（オルタナティブ・ジャーナリズム）	マス・メディア以外によるジャーナリズム活動の諸問題について考察する。称揚されがちな「オルタナティブ」なジャーナリズムの問題についても検討する。		
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、現代のメディア環境におけるジャーナリズム活動の問題点について理解できる。		
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分	
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分	
10	規範的ジャーナリズム論からの視座②（ジェンダーとメディア）	ジャーナリズムにおけるジェンダーの問題について、送り手側の問題だけではなく、コンテンツや受け手の側の観点から説明する。		
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、現代のジャーナリズムにおけるジェンダーの問題について理解できる。		
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分	
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分	
11	規範的ジャーナリズム論からの視座③（番犬ジャーナリズムのあり方）	「番犬（watch dog）」として理解されることの多いジャーナリズムについて、その意義と問題について説明する。		
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズムを「番犬」としてとらえるジャーナリズム論を一定程度相対化できること。		
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分	
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分	
12	ジャーナリズムと表現の自由	現代社会において制度的に保障されているジャーナリズムの自由について説明する。		
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、報道に関係する基本的な法理を理解をすることができる。		
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分	
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
13	社会理論としてのジャーナリズム論	社会現象としてのジャーナリズムを社会理論を用いて説明する。特に「メディア化」「ジャーナリズム化」について説明する。		
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズムに関係する社会理論について初歩的な理解をすることができる。		
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分	
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分	
14	「ジャーナリズム論」の問題点	今までの授業（ジャーナリズム論としての新聞学）を概説しながら、現代において可視化が進む「ジャーナリズム批判」の問題点について説明する。		
	この回の到達目標	目標③に関連し、ジャーナリズム研究の相対化の視点を持つための契機となる議論が出来るようになる。		
	事前学修	今までの教科書の該当範囲を振りかえり、ジャーナリズム研究の問題点について理解を深めておくこと。	120分	
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分	
15	総括と授業内試験	授業のまとめを行い、試験代替レポートを実施する。		
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、新聞学（メディア・ジャーナリズム研究）の基礎を理解できるようになる。		
	事前学修	試験代替レポートに向けた準備。	190分	
	事後学修	自己採点。	50分	